

企業ニュース SCREENホールディングス

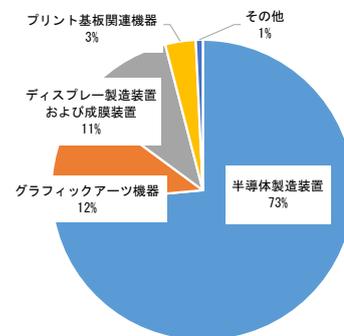
(東証1部: 7735) <https://www.screen.co.jp>

作成者: 兵藤三郎

洗浄装置で世界シェアトップの半導体製造装置メーカー

1937年、石田旭山印刷所の写真製版用ガラススクリーン研究部門が独立、2014年に持株会社体制へ移行し現在の社名に改称した。ガラススクリーンの国産化に成功(1934年)以降、リソグラフィー技術をベースに印刷関連機器に展開していく一方、半導体・フラットパネルディスプレイ(FPD)の製造装置事業に進出してきた。半導体製造装置では洗浄装置の世界最大手。枚葉式で38%、バッチ式で70%、スピンスクラバーで70%(2021年。アニュアルレポートより)の世界シェアを持つ。その他、リソグラフィー装置、熱処理装置、検査・計測装置など幅広い領域でソリューションを提供している。半導体製造装置の需要拡大に伴い、生産性向上に取り組んだ新生産工場「S³-3」(エス・キューブ・スリー、2019年操業開始)の稼働率が向上、業績向上に寄与している。

◇21. 3期売上高構成比



(出所) SCREENホールディングス
資料よりCAM作成

半導体製造装置の営業利益率上昇で業績向上

22. 3期・第2四半期累計(4-9月)の連結業績は、売上高が1,872億円、前年同期比31%増、営業利益が241億円、同271%増。半導体製造装置の需要拡大が業績をけん引した。メモリー向けの売上が大幅に拡大、ファウンドリーやロジック向けも堅調に推移した。「S³-3」の稼働率はほぼ100%で推移、加えて昨年より治具投入、リソース投入(人員増)などにより生産キャパも拡大している。半導体製造装置の営業利益率は17%台に回復した。研究開発費などの固定費が計画未達だったことも寄与した。全社の受注残高は2,065億円、同858億円増と高水準となった。7月時点での予想値を営業利益で46億円上振れて着地した。

22. 3期の会社計画は、売上高が4,090億円、前期比28%増、営業利益が545億円、同123%増。顧客である半導体メーカーの設備投資意欲が想定より強く、従来予想から売上高で175億円、営業利益で100億円上方修正した。半導体製造装置の生産体制はフラットパネルディスプレイの設備一部転用などを進め、来期4,000億円強の売上を想定し整備していく模様。

[株価動向・投資判断]

営業利益率上昇を評価したい。来期以降も、半導体製造装置売上高の伸長、「S³-3」の生産キャパシティ増などにより、さらなる利益率上昇に期待が持てよう。

<7735 スクリン 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
20. 3	323, 249 (▲ 11)	12, 561 (▲ 58)	11, 636 (▲ 60)	5, 010 (▲ 72)	107. 4	30. 00
21. 3	320, 322 (▲ 1)	24, 492 (▲ 95)	22, 720 (▲ 95)	15, 164 (▲ 203)	325. 2	90. 00
22. 3 予	409, 000 (▲ 28)	54, 500 (▲ 123)	51, 500 (▲ 127)	36, 000 (▲ 137)	773. 0	231. 00



[主要株価指標]	(売買単位: 100株)
株価(2021/11/5)	11,460 円
年初来高値(高値日)	11,750 円(21/11/5)
同 安値(安値日)	7,520 円(21/1/4)
予想 P E R (22. 3 予)	14. 8 倍
1株株主資本(PBR算出用)	4,779. 2 円
P B R	2. 40 倍
予想配当利回り (1株当たり配当金年231. 00円)	2. 02 %
R O E (21. 3)	7. 9 %
発行済み株式数	5,079 万株